

令和5年度

第1回連携中枢都市圏ビジョン懇談会議事概要

日時：令和5年11月28日（火）午後2時～3時30分

場所：鳥取市役所 本庁舎7階 議会全員協議会室

出席者：委員 出席 下田敏美委員、田中節哉委員、田村正弘委員、佐藤順委員、
谷田一富委員、小坂祐司委員、谷口透委員、綱本信治委員、
平井和憲委員、太田章太郎委員、中野ゆかり委員、西垣日出樹委員

欠席 川夏博志委員、澤田知之委員、村尾徹委員、秋山光行委員、
甲田紫乃委員、山本武志委員、中村暁委員

オブザーバー 鳥取県地域づくり推進部東部地域振興事務所 山下大治 副所長

事務局 鳥取市企画推進部政策企画課長 上田貴洋、同課係長 古網有希、
同課主任 岡本茉莉絵

岩美町企画財政課長 大西正彦、若桜町企画政策課長 谷本 剛、
智頭町企画課長 酒本和昌、香美町企画課長 川戸英明、
新温泉町企画課長 水田賢治

説明者 鳥取市総務部人権政策局次長兼中央人権福祉センター所長 川口寿弘

鳥取市市民生活部地域振興課長 山名常裕

鳥取市市民生活部環境局長兼生活環境課長 山根康子郎

鳥取市市民生活部環境局生活環境課 課長補佐 古網竜也

鳥取市経済観光部次長兼経済・雇用戦略課長 渡邊大輔

鳥取市経済観光部観光・ジオパーク推進課長 平井宏和

鳥取市農林水産部農政企画課課長 増田泰則

鳥取市都市整備部交通政策課 課長補佐 宮谷卓志

1 開会

2 自己紹介

3 正副委員長の選任

下田敏美委員を委員長に選出、坂本朋子委員を副委員長に指名

4 説明

(1) 連携中枢都市圏連携事業について・・・・・・・・・・資料1

(資料1について事務局説明)

5 議事

(1) 第1期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョンの取組結果について・・・資料2

(資料2について事務局説明)

○主な意見・質問等

<委員>

総括が12行ほどで終わっているが、5年間の大変大きな事業を行うにあたって、総括というのはすべての過程を検討し、そして評価するものだと思う。大きな3つの柱で構成されており、それごとに成果や効果があったのかの検証というものを記載するべきだと思う。口頭で補充的な形で言われたようにお聞きしたが、文字とすべきではないかと思う。1期の課題が2期につながっていると思うが、結びつきがよくわからないと感じた。

それと、資料2の10ページに、地域振興の主な取組結果として、首長や議長を交えてサミットを開催したことが記載してあるが、地域振興の中には、有害鳥獣とかいろんな事業がある。今、熊の問題は大変大きなことになっている。各町村広域的に有害鳥獣対策をどうするとかもって、他に記載することがあると思う。

それと、第1期の事業費がどの程度のものだったのか、述べられたらいいと思う。

<事務局>

ご意見ありがとうございます。

総括の作り方、まとめ方で、厳しいご指摘をいただきました。資料2の25ページあたりには、KPIの実績の一覧を掲載しておりまして、有害鳥獣関係の取組についても記載しているところですが、総括でそういう大事なことが表に浮上してきてない。

第1期としては、こういう総括ではありますが、本年4月にスタートしました第2期はこれからでございますので、ご指摘もしっかり受けとめて対応していきたいと思っております。

事業費につきましても第2期の資料にはございますけども、少しどういった工夫でできるのかということも研究してみたいと思っております。ありがとうございます。

<委員>

日頃から、連携しながらいろんなことを取り組むということをやっている。一緒にやろうというところから、みんなで同じことをやるというやり方だけではなく、役割をそれぞれ持って、重複を避けながら効果的にやっていくやり方の工夫であったり、或いは、観光の分野に関しては、5年前ぐらいまでは、外からお客さんがたくさんやってきて、たくさんお金を使ってくれる、それが一つの大きな成果ですというような言い方が中心だった。その結果として、例えば、ホテルでお金を使ったが、ホテルでは食材を県外から全部調達しているということだと、最終的にこの地域にお金が落ちないということになるので、指標として、この域内での調達がされているとか、本当に地域にお金が落ちているのかというようなことを見ていくやり方が必要じゃないかと思う。

この2点を、具体的にいろんな取組をしている中で、いろいろ考えていきたいと感じている。

(2) 第2期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョンの取組状況について

・・・資料3、3-1

(資料3、資料3-1について事務局説明)

○主な意見・質問等

<委員>

65番の「JR山陰本線利用促進事業」について、「広報しんおんせん」に鳥取まで切符を買った場合は往復のうちの1回分を行政が負担するというようなこと書いてあったと思うが、どうか。また、これは、永久の事業か。

<事務局>

JR浜坂駅から鳥取まで、またJR浜坂駅から豊岡方面までということで、日帰りで往復利用された場合、片道の乗車券を行政が無料で乗車券を差し上げるという取組をいたしました。これは、日にちを決めて実施しております。

<委員>

鳥取市も、香住まで買った場合往復のうちの半分出すような取組ができないか。

<事務局>

県の交通政策課がやっている事業で、青谷豊岡間の乗車券を、今の新温泉町さんと同じように、2人以上の旅行で半額助成という制度がありますので、そちらのPRに鳥取市と岩美町も努めておるとでございます。これは、期限は特に設けられておりません。

<委員>

先ほどの進捗状況、各項目の説明をいただきましたけども、達成できているもの、できそうなものとできそうではないものといろいろある。

例えば、各項目で目標値に対して未達成になりそうな項目については、所管の事務局の方から、課題などの説明をいただけるといいのかなと思った。

<委員>

R3が基準値でR5の目標値が記載してある。コロナ後を見据えて、数字を高く設定していらっしゃるのでは、結構プレッシャーがあるんじゃないかと思う。まだあと半年あるので、R5の目標値にこれから近づいていくんだろうと思うが、この目標値を達成できそうな感じでとらえているか。それとも、ちょっと目標値が高かったと感じているか、その辺の肌感覚を教えてください。

<事務局>

肌感覚としましては、コロナが5類に移行して人の往来も活発になってきておりますし、伸びていくんじゃないかとは思っていますが、5類移行後の初年度ですので、大丈夫と言い切り難いものを感じています。ただ、間違いなく回復傾向にありますので、今までと違う実績が出てくるのではないかと期待しております。

<委員>

各市町で努力されているのは、常々感じている。新温泉町では、普段から頑張っているのを感じているので、今後は広くPRしていただければありがたいと思う。

<委員>

35番の「山陰新幹線の整備促進のための要望活動等事業」について、以前は山陰線の複線化というのもあったと思う。山陰新幹線より複線化の方がまだ実現の可能性があると思う。城崎から鳥取の複線化をすれば、かなりスムーズに移動しやすくなる。もう山陰線の鳥取城崎間の複線化は要望しないのか。

＜事務局＞

現在、市町、議会も連携しながら、まずは新幹線、高速鉄道をこちら方面にも誘致できないかということで、松江市さんも含めてこの山陰の通りをやっているところがございます。まず大きな動きということで、やらせていただいているというようなところかなと思っております。

（３）第２期因幡・但馬麒麟のまち連携中枢都市圏ビジョンの取組状況について

①「麒麟のまち孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業（案）」について

・・・資料４-１

②「太陽光発電設備等共同購入事業（案）」について・・・資料４-２、当日配布資料

③鳥取駅周辺の再生に向けた取組について・・・資料５

（各資料について、事務局説明）

＜委員＞

孤独、孤立を見守る取り組みということで、すばらしい取り組みだと思う。しかしながら、「つながりサポーター」の養成に関しては、現在でも、このような活動の一部を担っている民生委員さんですら、なり手不足ということが指摘されている。民生委員さん自身も高齢化が進んでいる。

そういった中で、さらにこちらの「つながりサポーター」も行うということで、人の確保がかなり難しいのではないかと考えているが、人が継続して行っていける仕組みづくりについては、どのように考えているか。

＜説明者：鳥取市中央人権福祉センター＞

「つながりサポーター」の役割は、具体的に支援に当たるものではありません。

民生委員さんや、我々のような支援機関が困難を抱えてらっしゃる方をすぐに把握するのは難しく、時間がたてばたつほど困難が深刻になっていって、どうにもならなくなってから繋がるというケースが非常に多くございます。そこを解消するために、困難を抱えてなるべく深刻化しないうちに、少し気になるなという段階で、隣近所の感覚で、そのことに気づいていただいて、その情報を伝えていただくというのが唯一の役割でございます。

情報をいただきますと、行政や民間の支援機関も含めて対応させていただくと考えておりますし、あとは、「つながりサポーター」の養成で孤独・孤立のことについても勉強していただきますので、このサポーター養成の中でも、地域の中でお互いに気かけ合うような姿勢を持った方の人材育成ということで、地域づくりにも繋がっていくのではないかと考えております。

「つながりサポーター」養成については、受講にあたって動員のようなものは一切かけておりません。基本的に、主体的に受講されたいという方をお願いをしております。昨年度から始めまして、現在１７０人ほど養成講座を終了しております。今年度に入ってから、地域だけではなくて企業の出前研修など、趣向を凝らして人数を増やそうという努力をしているところでございます。

また、「つながりサポーター」の養成研修を修了された方については、ご本人の同意をいただければ連絡先をご登録いただくようにしております。加えて、LINEの登録などもしていただき、研修の情報も含め、随時必要な情報提供をさせていただきます。もう少し年数が経てきますと、いわゆる更新研修のようなものを実施して、なるべく、一度受講された方の気持ちが下がらないように、継続して関わっていただけるような仕組みにしていきたいと考えております。

<委員>

麒麟のまち圏域でも太陽光発電を進めるのであれば、後処理についても調べなくてはと思った。太陽光パネルの部材で、有害な物質で、鉛、錫、アンチモンという有害な物質があるそうだが、処理する際に適切な処理業者にしていただかないと、後々、子どもたちに悪い影響を及ぼすのではないかと、質問した。

具体的には、県内にパネルを適切に処理できる施設があるということなので、安心はしたが、鉛、錫、アンチモンがちゃんと処理されているのかというところまで知りたかった。

また、有害物質だけでなく、銅とか銀という金銭上の価値のある物質もこの太陽光パネルの部材にも入っている。そういうような、有価物質もちゃんと取り除いているのかどうか。

<説明者：鳥取市生活環境課>

先ほど、有害なものについて、これにつきましては、この白兔環境開発様が太陽光パネルの再生処理の焼却の事業を行っておられるとのこと。有害物質につきましては、焼成工程で約1000度の高温で燃やす関係で、有害物を廃棄除去するということですので、それについては問題ないかと思われま。

<委員>

太陽光発電は、自然エネルギーとして推進していくのはすごくいいことだと思うが鳥取県においてはどうだろうか。

総務省が令和3年の日照の統計をとった結果では、全国都道府県47都道府県のうち、鳥取県は43番目で、太陽光発電に不向きなところ。そういった中で、太陽光発電そのものを進めていくのは、いかがなものかなと思う。

<説明者：鳥取市生活環境課>

当日配布資料の記載は、広島県のデータがなかったものですから、42番目となっておりますが、確かに広島県の方が鳥取より日照時間は長いだろうということで、おそらく言われるように43番目というのが正解だと思っております。

また、鳥取県は平均日照時間の順位は低い状況ではありますが、鳥取市内でもFIT（再生可能エネルギーの普及を目的とした「固定価格買取制度」）をやっておられる方がいらっしゃいます。

確かにFITは、どんどん安くなっておりますが、利益を生むという形ではなく、太陽光で蓄電して家庭の中で使うことで電気代を抑えるということに変わってきております。そういったことも考えると、太陽光発電自体は、決して無駄なものではなく進めていっても問題はないものと考えております。

<委員>

太陽光発電のところで、実施区域が鳥取市と若桜町と新温泉町だけで、他の麒麟のまちの4町さんが実施しないとした理由はこういったものがあつたか。

<説明者：鳥取市生活環境課>

各町によってあると思いますが、例えば、智頭町様におかれましては、杉の町でバイオマス発電を重視されておられることもありますでしょうし、今回の事業を踏まえて、ご検討されたいというような自治体もあろうかと思っております。

ただ、地元の企業、事業者がどう関わるのかどうかということも踏まえて、今回は参加しな

いとするというような判断のところもございました。

<委員>

自治体が広報して、協定を結んだ事業者が募集をかけるということで、ある意味では、自治体から太鼓判を押された業者が太陽光パネルの設置を進めることになるが、設置する住民に対して適正な説明ができるのか。設置に関しての費用は、きちんと説明されるだろうが。例えば、鳥取だと積雪がある。それに適切に対応する体制だとか、壊れたときの費用、撤去する際の費用だとか、そういったところまでその事業者がちゃんと説明できるのか。そこまで自治体が責任を持って共同購入事業をしてもらえるのかというのが、住民としては心配。

将来的に長い目で見たときに、それが本当に設置した人にとってプラスなのか。各自治体には、壊れたときや撤去するのにすごくお金がかかるとか、そういったことのないような進め方をしたい。高齢者がだまされるというようなことがないといいなと思う。

<説明者：鳥取市生活環境課>

当日配布資料の4番については、2050年のゼロカーボンに向けて、再生可能エネルギーを導入していくということを進めていきたいと考えている中で、家庭部門で導入できる発電方法を勘案した場合に、家でバイオマスとか水力というわけにはいかないというところがあります。確かに日照時間の問題はありながらも、太陽光を進めていくにはどうしたらいいかという取組であるということが、回答の本意でございます。

また、先ほど言われました、だまされるというようなことがないようにというご指摘ありがとうございます。この度は、鳥取市をはじめ若桜町さん新温泉町さんという自治体が、一緒に見ていくということがございますので、委員がご心配されているようなことが起こらないように気をつけて進めていきたいと考えております。

<委員>

家庭での発電ということでは、例えば薪ストーブなどでもいいのではないか。特に若桜とか山側には合っているかと思う。

<オブザーバー>

かなり活発な意見交換で、忌憚ない意見が出ている。説明責任を果たしつつ、委員さんから出た意見を丁寧に拾って進めていっていただきたい。

アフターコロナの初年度で、効果が見えないところもあるが、観光誘客とかインバウンドが見える形になっていくと、将来的にワクワクしたイメージというのが伝わるのかなと思う。

6 閉会